

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077800110		
法人名	社会福祉法人 大川医仁会		
事業所名	グループホームあおぎり荘		
所在地	福岡県久留米市城島町芦塚804番地3 (電話) 0942-62-2150		
自己評価作成日	令和 年 月 日	評価結果確定日	令和 2 年 3 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、開設以来、地域密着型サービス事業所としての理念に沿って、職員一人ひとりが地域の一員であるという意識の下、事業所と地域の共存に努めてきた。又、ご利用者の生活の質の向上に向けてできるケアを常に考え、業務に取り入れることができるよう努めている。

更に、隣接する事業所と連携し、単独型事業所と比較しても、柔軟性、多様性に富んだサービスの提供が実現できている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 2 年 2 月 28 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は筑後川沿いに広がる田園風景の一角に位置している。同敷地内のデイサービス事業所とともに、地域との繋がりを大切に、介護事業を行っている。職員も地域の一員としての思いを強く持ち、地域行事など積極的に参加している。利用者については、一人ひとりのライフストーリーを大切に、家族も含め穏やかに過ごせるよう日々努力されている。看取り介護も行っている。事業所内は整理整頓され、地元の特産品などが彩りよく飾られ、明るい雰囲気となっている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は地域とのつながりを大切にし、その人らしくやすらぎのある生活を送れるようお手伝いします」という理念は、職員全員で考えた理念であり、職員の目につく場所に掲示し、理念の共有と実践に努めている。	法人の理念を元に、事業所理念を掲げている。職員が話し合い作り上げたもので、職員一人一人が地域の一員としての思いを持ち、実践されている。事業所内に掲示し、職員は毎朝の朝礼の時に唱和して、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会（隣組）に加入し、地域行事には積極的に参加している。又、老人クラブ・保育園・小学校等と定期的に交流を図り、気軽に訪れていただけるように努めている。	事業所は自治会に加入し、地域活動へ積極的に参加されている。ゴミ拾いや彼岸花植えなどに協力したり、地域行事の夏祭りや出店するなどしている。また、保育園や小学校との交流も盛んである。近所の方からお裾分けがあるなど地域との付き合いも良好である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービス事業所運営推進会議には、地域の民生委員、区長にもご参加いただき、認知症についての理解を深めていただけるよう努めている。又、小学校の見学や中学生の職場体験等も積極的に受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場において、事業所の取り組み、入居者状況等の報告を定期的に行っている。又、会議で上がったアドバイスやご意見は積極的にサービスに反映するように努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催され、家族、久留米市介護保険課、自治会長、民生委員の参加がある。会議では利用者の様子や運営状況を報告し、理解を得ている。また、参加者から様々な意見を取り上げ、サービスの質の改善や地域への社会貢献に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、久留米市介護保険課や、地域包括支援センターからもご参加いただき、状況の報告を行っている。又、必要時にはこちらから連絡し、質問や協力の依頼等を行っている。	日頃、窓口へ出向いたり、電話で相談や報告をするなどしている。また、「住みやすい町づくり推進会議」や「グループホームネットワーク」の集いに参加し、行政職員と良好な関係を築くよう努力されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の理念を掲げ、定期的に内部研修会を実施し、身体拘束をしない取り組みを継続している。	日中、玄関は施錠せず、チャイムを設置している。原則、身体拘束をしないことで方針を定め、利用者の外出希望があれば付き添いを行うようにしている。全職員は内部研修に参加し、理解を深めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修会を行い、職員による虐待の防止に努め、利用者には敬意を持った対応を徹底するよう努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、久留米市の出前講座を活用し、権利擁護に関する制度について理解を深めることが出来るようにしている。	契約時や相談受付時、説明を行っている。職員は、行政の出前講座を受講し、制度の理解を深め、必要時には説明ができるようにしている。事業所内にパンフレットなど用意している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、事前に十分な時間を設け、ご理解いただいた上で契約に至るよう、疑問点等に傾聴し、ご納得いただいた上での契約となるように努めている。又、改定時には個別に説明を行い、同意・承諾を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	両棟玄関にご意見箱を設置し、家族会や面談時にご家族のご意見やご要望等頂く機会を複数設け、サービス提供に反映できるように努めている。	利用者の意見は、日頃、職員が傾聴し、食事の献立に反映させたり、外出の支援など生活に必要な支援を行っている。家族に対しても、家族会や意見箱など意見を聞くようにしている。利用者、家族ともに意見が言いやすい雰囲気であり、事業所はできるかぎり、意見の反映に努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、担当理事との個人面談を行い、職員からの意見を聞く機会を設けている。又、面談結果については、担当理事より報告があり、事業所の運営に反映できるよう努めている。	法人として、年1回、個人面談が行われ、その中で意見を聞くようにしている。日頃は、管理者が現場に入り、耳を傾けている。管理者は出された意見に対して、何らかのリアクションを返すように心がけている。ユニット内の環境づくりは職員が自主性を持って行われている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人が希望する勤務形態で勤務できるように、結婚、出産等の家庭環境の変化に応じた配置、勤務を行っている。又、事業所の収支状況に応じた給与水準の見直しを理事会に定期的にはたらきかけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別等の制限は設けていない。又、資格取得の自己啓発等に努める職員には、勤務面でサポートする等の配慮を行っている。	事業所の職員は、年代や性別にかかわらず募集や採用が行われている。定年はあるが、再雇用を積極的に行っている。また、資格取得などについて、事業所はシフト調整や必要な情報提供を行うなど配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当法人では、利用者の事を「ゲスト」とお呼びし、利用者の方々は、我々職員にとってお客様であり、目上の方、年上の方であるという認識を忘れないように意識し、会議や研修の際には事例を取り上げながら啓発活動を行っている。	人権に関する研修は、内部研修に全員が参加し、利用者に対する人権を尊重し、職員に対する人権教育に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数や勤務実績を考慮しながら、研修会等への参加をはたらきかけている。又、委員会等において職員が主体的に研修を開催するなどの取り組みを行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のサービス事業者協議会や、地域包括支援センターが行う活動等に参加し、交流する機会を積極的に設けている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に必ず職員との面談の機会を設けていただき、小さい不安でも払拭することが出来るように努めている。又、ご要望などがある場合は、サービスに反映することが出来るように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能であれば、入所前の面談は複数回行い、ご家族のご意見に傾聴し、不安な点や疑問点を引き出し、解消するように努めることで、信頼関係の構築を図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からアセスメントを聴取し、要望や不安点、ニーズの把握に努め、事業所に求められるサービスが適切に提供できるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所は、利用者にとって「家」であることを意識し、家庭的な雰囲気作りを心がけ、職員は生活を共同する立場であるという意識の下、利用者との関係の構築に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係が希薄にならないよう、事業所での生活状況や心身の状態の変化などを適時報告している。又、ケアの内容についても、必要に応じて報告、相談を行い、利用者の支援に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊の支援は積極的に行い、ご家族のみならず、入所される以前から馴染みのある家や店等へも継続して足を運んでいただけるように支援している。	入居前、利用者の馴染みの関係や場所など把握を行っている。入居後も、知人に尋ねていただくなど、関係が途切れないよう支援している。また、馴染みのお店や床屋などへの案内が行われている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席などに配慮し、気の合う方同士でゆっくりと談笑していただけるような環境作りを努めている。又、会話がスムーズになるように職員が利用者同士の間に入るなどの配慮を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご利用者やそのご家族の相談も受け付けており、必要に応じてフォローする等の支援を継続する取り組みを行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人おひとりの意思や希望をサービスに反映できるように、日常的なモニタリングを行い、月に1回のカンファレンスにおいて検討、見直しを随時行っている。	入居契約時に、ご本人やご家族より希望を聞き取り、日常的なモニタリングを行って傾聴し、聞きだす努力をしている。また、意思疎通が困難で帰宅願望の強い利用者の以前の仕事を家族から伺い、しめ縄づくりの材料を提供したことで、作業に集中されるようになり、改善につながるなど、利用者の思いに沿った支援を行っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況を把握する為に、ご家族や医療機関、入所前にご利用されていた介護サービス機関等から情報を収集し、それを基にサービス内容の検討を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごされ方を記録し、アセスメントを参考にして、カンファレンスにて状況の把握及び、情報の共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成・更新する上では、ご本人の状態、ニーズ、ご家族の要望等、様々な情報を把握、整理し、現状に応じた計画書の作成に努めている。	利用者ごとに担当制になっており、モニタリングを行っている。利用者の視点で職員やかかりつけ医の往診時に状態を見ていただき、意見を集約し、介護計画に反映している。日々の状況はモニタリングシート・介護記録表・健康管理表など、毎日記録し、状態変化時は業務日誌に記録している。職員全員で状況、内容を把握し、現状に応じた計画作成に努めている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録を作成、記録することで、サービスの実施状況の把握を行いやすくし、介護計画の見直しに活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に沿えるように、その時々で発生するニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員をはじめとした地域団体の代表の方々と定期的に情報を交換し、協力体制の構築に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からかかりつけられていた医療機関と、入所後も可能な限り継続できるよう、医療機関にも協力を求めている。又、看護職員を窓口に必要な医療を受けることができるよう、医療機関との連携に努めている。	入居前からのかかりつけ医を利用している入居者が多くおられ、できる限り継続できるよう医療機関と連携している。かかりつけ医に定期的に状態の報告をしている。受診時は、看護師が付き添い、適切な医療を受けられるよう支援している。受診後はその日のうちに、ご家族に報告し共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師の資格を有する職員が窓口となり、隣接する事業所の看護職員とも協力体制を構築し、個々の状態に応じた医療を受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院される際は、慣れない環境に動揺されることもあるので、可能な限り面会に行くように努め、医療機関との情報交換を密接に行い、早期退院に向けた取り組みを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に事業所のターミナルケアの方針について説明し、重度化された場合は医療機関と連携し、可能な限りご家族の意向に沿うことが出来るように職員間で検討を行っている。事業所での看取りを希望される場合は、穏やかに最期を迎えていただけるようにケアの提供に努めている。	事業所開設以来、10名以上の看取りを行っており、「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、看取り介護マニュアルにより対応している。入居時に本人・ご家族へ看取りに関する説明を行い、主治医・看護師・施設長・介護士など同席して、医師より説明を受け、看取りに関する同意書を作成している。職員はターミナルケアについて、グループホーム会議で研修を受け、看護師の指導のもとで、看取りに関する知識を深めて、支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に協力してもらい、救急救命講習を実施している。又、内部研修においても、急変時の対応について定期的に研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間それぞれを想定した避難訓練を実施している。夜間想定避難訓練の際には区長や民生委員にも参加いただいで実施している。	年2回、日中は系列デイサービスと合同で行い、火災訓練は事業所独自に消防署立会いの下、夜間を想定した訓練を行っている。訓練実施の際は区長や民生委員など地域の方も一緒に参加している。万一に備えて、利用者の荷物も、いつでも持ち出せるよう準備している。地震訓練も年1回実施、水害等マニュアルも整備している。非常用備品も施設内に準備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的な言葉遣いについては、職員間で注意し合うようにしており、親しみを込めた言葉遣いを意識している。入浴時や排泄時などの基本的な部分からプライバシーの配慮には十分注意している。	排泄時や入浴時など言葉遣い・マナーなどグループホーム会議の研修で職員全員に周知しており、日頃の言葉かけなど職員間で注意し合うようにしている。施設に掲示している写真などの個人情報も契約時に説明し同意を得ている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の疎通が困難な方には、表情や反応などを観察し、思いや心情を読み取れるように努めている。又、日常生活の中で自己決定ができる取り組みを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や日向ぼっこ等を希望された時には一緒に付き添い、食事のペース、入浴時間等も個々の希望に応じたケアに努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えをされる際には、本人が選ばれるように配慮し、髪型、スキンケアなどの身だしなみにも注意を払っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年2回、嗜好調査を実施し、嗜好に応じたメニューを取り入れることが出来るよう努めている。又、刻み食、ソフト食等、病気や嗜好状態に応じた食事形態で提供するようになっている。	年に2回嗜好調査を実施しており、利用者の好き嫌いを把握して提供している。食材は配食業者から配達されており、行事食やクリスマス会、誕生会などは入居者の好きなものをメインに取り入れている。利用者のできることを手伝ってもらい、食事が楽しみになるよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量をチェック表に記載し、状況の把握に努めている。又、ミキサー食、減塩食等の嗜好状態や嚥下状態に応じた食事形態で食事を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が利用者個々に声掛け、介助を行い、口腔ケアを実施している。又、ケアの実施時に口腔内の状態を確認し、異常の早期発見に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、個々の排泄能力に応じた支援を行えるよう、排泄パターンの把握に努め、時間ごとの声掛け、ケアに役立てている。	個別に排泄チェック表に記録して、排泄パターンを把握して、時間帯で声かけを行い、トイレに誘導している。尿意のない方も、トイレに誘導し、話をしたりして、排泄に繋げている。トイレに利用者一人ひとり個別のパッド・下着を準備して、すぐに交換できるようにしている。夜間帯はオムツを使用しても、日中は布パンツに着替え、トイレに誘導し、排泄の自立支援に向けて取り組んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んで頂き、体操やレクリエーション等の運動を行い、自然排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間は、個人の希望に出来るだけ近い時間に入浴して頂けるよう配慮している。精神状態により拒否が見られる場合などは、時間を置いたり、声掛けの職員を変えたりなどして気持ちよく入浴して頂けるように配慮している。	入浴は毎日できるように準備されており、利用者は週2～3回入浴、曜日の設定はない。入浴を拒否される利用者には、時間をおいて職員を変えて声かけしたり、利用者の状態で工夫をしている。入浴剤もゆず湯や乾燥対策の入浴剤を使用し、入浴を楽しめる支援をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や心身の状態に応じて休息を取っていただけるよう配慮している。又、必要に応じて個別の行動チェック表を作成し、睡眠や休息の時間の把握に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬されている薬の種類や副作用等を把握し、薬の変更がある場合は、説明書等を閲覧し、全職員で情報の共有に努めている。又、服薬種類変更時には、状態の変化に注意を払い、医療機関への報告を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で残存機能を活かしながら洗濯や掃除、運動や手芸等、無理なくできる範囲で行っていただけるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりのご希望や、ご家族の要望に応じて外出支援を行っている。希望される場合は、ご家族との外出に職員が同行するようにしている。	利用者一人ひとりの個別に対応できるように努めており、観劇など職員も一緒に同行したり、毎日の散歩も地域の方と会話をして支援を行っている。事業所行事でも、月1回程度バスハイクで桜や藤・菖蒲園見学など、希望を把握して、季節の見学を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則事業所で金銭は管理させていただいているが、希望される場合は、ご自分で管理して頂けるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙のやり取りができるように支援している。特にご家族のお住まいが遠方である場合は、ご家族にもご協力いただき、電話を掛ける時間を設けてもらえるようお願いしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や空調には常に注意を払い、清潔感を保ち、過ごしやすい空間作りに努めている。又、建物内の飾りつけにも季節感を取り入れ、視覚的な面から季節感を味わっていただけるように努めている。	事業所内は整理整頓され、清潔に保たれ、光や室温などにも配慮されている。利用者が安全に歩行できるように動線を配慮したソファが配置され、畳スペースは自由に過ごせるようになっている。壁面には、毎月の行事の写真などが掲示されており、玄関には、職員が持参した雑飾りなどが配置され、季節を感じる空間となっている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルのみならず、ソファや椅子を配置し、思いのまま自由に過ごして頂けるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族とも相談しながら、使い慣れた物や馴染みの物棟を居室内に取り入れ、安全で居心地よく過ごして頂けるように努めている。	居室内は広々としており、カーテン、エアコン、クローゼットがとりつけられている。利用者の使い慣れたテーブル、ベッド、筆筒、布団、テレビなどが持ち込まれ、家族写真や制作物などが置かれ、利用者や家族が好きなようにレイアウトされ、落ち着いて過ごせるような工夫がされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の身体状況に応じた介助バーや手すりの設置を検討し、残存機能を活かした安全な生活が送ることができるように取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は地域とのつながりを大切にし、その人らしくやすらぎのある生活を送れるようお手伝いします」という理念は、職員全員で考えた理念であり、職員の目に付く場所に掲示し、理念の共有と実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会（隣組）に加入し、地域行事には積極的に参加している。又、老人クラブ・保育園・小学校等と定期的に交流を図り、気軽に訪れていただけるように努めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービス事業所運営推進会議には、地域の民生委員、区長にもご参加いただき、認知症についての理解を深めていただけるよう努めている。又、小学校の見学や中学生の職場体験等も積極的に受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場において、事業所の取り組み、入居者状況等の報告を定期的に行っている。又、会議で上がったアドバイスやご意見は積極的にサービスに反映するように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会には、久留米市介護保険課や、地域包括支援センターからもご参加いただき、状況の報告を行っている。又、必要時にはこちらから連絡し、質問や協力の依頼等を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の理念を掲げ、定期的に内部研修会を実施し、身体拘束をしない取り組みを継続している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修会を行い、職員による虐待の防止に努め、利用者には敬意を持った対応を徹底するよう努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、久留米市の出前講座を活用し、権利擁護に関する制度について理解を深めることが出来るようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、事前に十分な時間を設け、ご理解いただいた上で契約に至るよう、疑問点等に傾聴し、ご納得いただいた上での契約となるように努めている。又、改定時には個別に説明を行い、同意・承諾を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	両棟玄関にご意見箱を設置し、家族会や面会時にご家族のご意見やご要望等頂く機会を複数設け、サービス提供に反映できるように努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、担当理事との個人面談を行い、職員からの意見を聞く機会を設けている。又、面談結果については、担当理事より報告があり、事業所の運営に反映できるように努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人が希望する勤務形態で勤務できるように、結婚、出産等の家庭環境の変化に応じた配置、勤務を行っている。又、事業所の収支状況に応じた給与水準の見直しを理事会に定期的にはたらきかけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員採用について、年齢や性別等の制限は設けていない。又、資格取得の自己啓発等に努める職員には、勤務面でサポートする等の配慮を行っている。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>当法人では、利用者の事を「ゲスト」とお呼びし、利用者の方々は、我々職員にとってお客様であり、目上の方、年上の方であるという認識を忘れないように意識し、会議や研修の際には事例を取り上げながら啓発活動を行っている。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務年数や勤務実績を考慮しながら、研修会等への参加をはたらきかけている。又、委員会等において職員が主体的に研修を開催するなどの取り組みを行っている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のサービス事業者協議会や、地域包括支援センターが行う活動等に参加し、交流する機会を積極的に設けている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所される前に必ず職員との面談の機会を設けていただき、小さい不安でも払拭することが出来るように努めている。又、ご要望などがある場合は、サービスに反映することが出来るように努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>可能であれば、入所前の面談は複数回行い、ご家族のご意見に傾聴し、不安な点や疑問点を引き出し、解消するように努めることで、信頼関係の構築を図っている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からアセスメントを聴取し、要望や不安点、ニーズの把握に努め、事業所に求められるサービスが適切に提供できるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所は、利用者にとって「家」であることを意識し、家庭的な雰囲気作りを心がけ、職員は生活を共同する立場であるという意識の下、利用者との関係の構築に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係が希薄にならないよう、事業所での生活状況や心身の状態の変化などを適時報告している。又、ケアの内容についても、必要に応じて報告、相談を行い、利用者の支援に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊の支援は積極的に行い、ご家族のみならず、入所される以前から馴染みのある家や店等へも継続して足を運んでいただけるように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席などに配慮し、気の合う方同士でゆっくりと談笑していただけるような環境作りを努めている。又、会話がスムーズになるように職員が利用者同士の間に入るなどの配慮を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご利用者やそのご家族の相談も受け付けており、必要に応じてフォローする等の支援を継続する取り組みを行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人おひとりの意思や希望をサービスに反映できるように、日常的なモニタリングを行い、月に1回のカンファレンスにおいて検討、見直しを随時行っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況を把握する為に、ご家族や医療機関、入所前にご利用されていた介護サービス機関等から情報を収集し、それを基にサービス内容の検討を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごされ方を記録し、アセスメントを参考にして、カンファレンスにて状況の把握及び、情報の共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成・更新する上では、ご本人の状態、ニーズ、ご家族の要望等、様々な情報を把握、整理し、現状に応じた計画書の作成に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録を作成、記録することで、サービスの実施状況の把握を行いやすくし、介護計画の見直しに活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に沿えるように、その時々で発生するニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員をはじめとした地域団体の代表の方々と定期的に情報を交換し、協力体制の構築に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からかかりつけられていた医療機関と、入所後も可能な限り継続できるように、医療機関にも協力を求めている。又、看護職員を窓口 to 適切な医療を受けることができるよう、医療機関との連携に努めている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師の資格を有する職員が窓口となり、隣接する事業所の看護職員とも協力体制を構築し、個々の状態に応じた医療を受けることができるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院される際は、慣れない環境に動揺されることもあるので、可能な限り面会に行くように努め、医療機関との情報交換を密接に行い、早期退院に向けた取り組みを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に事業所のターミナルケアの方針について説明し、重度化された場合は医療機関と連携し、可能な限りご家族の意向に沿うことが出来るように職員間で検討を行っている。事業所での看取りを希望される場合は、穏やかに最期を迎えていただけるようにケアの提供に努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に協力してもらい、救急救命講習を実施している。又、内部研修においても、急変時の対応について定期的に研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間それぞれを想定した避難訓練を実施している。夜間想定避難訓練の際には区長や民生委員にも参加いただいで実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的な言葉遣いについては、職員間で注意し合うようにしており、親しみを込めた言葉遣いを意識している。入浴時や排泄時などの基本的な部分からプライバシーの配慮には十分注意している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の疎通が困難な方には、表情や反応などを観察し、思いや心情を読み取れるように努めている。又、日常生活の中で自己決定ができる取り組みを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や日向ぼっこ等を希望された時には一緒に付き添い、食事のペース、入浴時間等も個々の希望に応じたケアに努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えをされる際には、本人が選ばれるように配慮し、髪型、スキンケアなどの身だしなみにも注意を払っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年2回、嗜好調査を実施し、嗜好に応じたメニューを取り入れることが出来るよう努めている。又、刻み食、ソフト食等、病気や嗜好状態に応じた食事形態で提供するようになっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量をチェック表に記載し、状況の把握に努めている。又、ミキサ食、減塩食等の嗜好状態や嚥下状態に応じた食事形態で食事を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が利用者個々に声掛け、介助を行い、口腔ケアを実施している。又、ケアの実施時に口腔内の状態を確認し、異常の早期発見に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、個々の排泄能力に応じた支援を行えるよう、排泄パターンの把握に努め、時間ごとの声掛け、ケアに役立てている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んで頂き、体操やレクリエーション等の運動を行い、自然排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間は、個人の希望に出来るだけ近い時間に入浴して頂けるよう配慮している。精神状態により拒否が見られる場合などは、時間を置いたり、声掛けの職員を変えるなどして気持ちよく入浴して頂けるように配慮している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や心身の状態に応じて休息を取っていただけるよう配慮している。又、必要に応じて個別の行動チェック表を作成し、睡眠や休息の時間の把握に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬されている薬の種類や副作用等を把握し、薬の変更がある場合は、説明書等を閲覧し、全職員で情報の共有に努めている。又、服薬種類変更時には、状態の変化に注意を払い、医療機関への報告を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で残存機能を活かしながら洗濯や掃除、運動や手芸等、無理なくできる範囲で行っていただけるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりのご希望や、ご家族の要望に応じて外出支援を行っている。希望される場合は、ご家族との外出に職員が同行するようにしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則事業所で金銭は管理させていただいているが、希望される場合は、ご自分で管理して頂けるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙のやり取りができるように支援している。特にご家族のお住まいが遠方である場合は、ご家族にもご協力いただき、電話を掛ける時間を設けてもらえるようお願いしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や空調には常に注意を払い、清潔感を保ち、過ごしやすい空間作りに努めている。又、建物内の飾りつけにも季節感を取り入れ、視覚的な面から季節感を味わっていただけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルのみならず、ソファや椅子を配置し、思いのまま自由に過ごして頂けるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族とも相談しながら、使い慣れた物や馴染みの物棟を居室内に取り入れ、安全で居心地よく過ごして頂けるように努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の身体状況に応じた介助バーや手すりの設置を検討し、残存機能を活かした安全な生活が送ることができるように取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		